



NPO法人 大谷石研究会



大谷石の魅力を全国のみなさんへお伝えする大谷石研究会の広報誌

# 「石の街うつつのみやシンポジウム」

## 大谷・大谷石・大谷石文化 未来へ

NPO法人 大谷石研究会 副理事長  
シンポジウム実行委員長 佐藤公紀

NPO法人大谷石研究会では、うつつのみやの貴重な地域資源「大谷石」をテーマに「石の街うつつのみやシンポジウム」を、宇都宮市城山地区市民センターで11月18日(土)午後1時〜4時30分、県内外168名の参加者を迎え盛大に開催されました。



午後1時、小野口前理事長の当研究会活動などを紹介しながら開催の挨拶でスタートしました



塩田理事長がコーディネーターとなり、4名のパネリストと討論しました



東京・千葉などから翌日のエクスカーションとあわせ泊りがけで来場された方も

つのみやシンポジウム「大谷・大谷石・大谷石文化 未来へ」と題したシンポジウムを同会場の大会議室で、また翌日の19日(日)には大谷石建築を巡るエクスカーションとして、2台のバスでガイドをしながらツアーを行いました。今回の行事は、大谷石研究会にて今年度最大の事業です。開催までは、関係する実行委員の皆さんと、度重なる打合せを行いながら準備を進めました。10日には写真展用パネルの展示を担当会員が行いました。

NPO法人大谷石研究会では、11月11日(土)〜19日(日)の9日間わたって、「石の街うつつのみや」の事業を行いました。11日からは城山地区市民センターのロビーで、研究会が所蔵する大谷石建築の写真展を、18日には「石の街

シンポジウム開催日である18日は、早朝より宇都宮市役所の関係部署職員や大学生も加わり約30名のスタッフで設営作業を行い、午後1時から予定通り開催できました。シンポジウムへの参加者は雨天にもかかわらず168名を超え、椅子の増設を行う事になった程です。シンポジウムは小野口前理事長より開会のご挨拶をいただき、塩田理事長のコーディネートにより4名のパネリストの講演で開始されました。始めに宇都宮美術館主任学芸員である橋本優子さんより、「なぜ、旧帝国ホテルに大谷石が使われたのか、凝灰岩の中に大谷石の存在」と題して、旧帝国ホテルに大谷石が使われた理由や凝灰岩の中での大谷石について解説いたしました。次に宇都宮大学准教授である安森亮雄さんより、「暮らし・生業・産業から見た大谷石の建物とその風景」と題して、集落調査の分析や大谷石が作る風景や各地の石が



城山地区センターのロビーで「石の街うつつのみや写真展」を11日〜18日の9日間開催しました